

澁川一流柔術  
無雙神傳英信流拔刀兵法  
大石神影流劍術

# 貫汪館会報

第77号

発行 貫汪館  
発行日 平成二十六年 一月 一日  
発行人 森本邦生  
広島県廿日市市宮内一四八〇

## 『広島城学講座』二の丸夜話



ツブをされ、とても趣があり、昼間に見られるものとはまた違った雰囲気を受けました。また、会場の二の丸も当時の雰囲気を感じさせる場となっており、その様な中での講座開講となりました。

講座では、森本館長がこれまで調査されて来られた、広島藩の武道について剣術・槍術・居合・柔術などの資料とパソコンを使いスクリーンにゆかりの場所の写真などを映しながら古武道を知らない方にも分かりやすく説明をされておられました。

聴講者の皆さんはとても熱心に耳を傾けられ、特に、広島藩が武道の面で他藩に遅れていたこと、実は他流試合はテレビで見られるような殺伐とした物では無かった事、幕末の防具着用の試合の事や試合における防具の変化や現代武道と古武道の違いなどの話を興味深く聴かれておられました。

平成二五年十月九日〜十一日の3日間、広島城二の丸にて、広島城主催の『広島城学講座』二の丸夜話「道をきわめる」と言う講座が開かれました。最終日の講座に講師として招かれた森本館長のお手伝いをするために、竹本師範・三崎俊広と共に参加してまいりました。この講座に参加するきっかけとなったのは、今年の一月に東区で行われた森本館長の講演会にいらしていた広島城の学芸員の方に声をかけて頂いた事から始まりました。

この講座では初日「上田宗箇と武家茶道」、二日目「かぐわしき香道の世界」、最終日「広島藩の武道」と、広島藩で培われた「道」についてのお話と実演がなされました。

さて、当日ですが、十八時に二の丸に到着をしました。広島城はライトア



講演と合わせて古武道を実際に見て、感じて頂くために演武も行われました。

始めに、大石神影流剣術より、防具着用の試合に突き技を取り入れた形「試合口」、流派剣術の形「陽の表拾本」を、次に無雙神傳英信流拔刀兵法より、一人で行う形の他に二人で行う形も有る事を知って頂く為に「詰合」、刀を抜けない状況の中で相手に対する形「大小詰」を行いました。最後に澁川一流柔術より、素手の攻撃に対する護身術の形「込入」、「四留」、「上抱」、「裏襟」、短い刃物に対する形「打込」、「両懐剣」、「互棒」、刀に対する形「半棒」、「刀と棒」、「十手」、「分童」、「居合」を行いました。

聴講者の皆さんは講演だけでなく実際に稽古をしていた武道を感じて頂き、そして当時の歴史の一端に触れていただく事ができたと思います。そして現代武道と古武道が全く違うもので有る事を知って頂く事が出来たと思います。講演も終わり皆さんが帰られる際に我々に声をかけて頂き大変ありがたい思いをいたしました。

最後に、あらためて古武道は多くの方に認知をされていないと言う事を知らされました。演武会や、この様な講座には積極的に参加させて頂き、日本の伝統である武道を正しく多くの方に知っていただく事も古武道を稽古する者にとって大切な事であると言う事を知りました。この様な機会を与えてくださった広島城の方々にはこの場を借りて感謝をいたしたいと思えます。有難うございました。

(文責 七尾道場長 片岡潤一)

## 『出雲大社奉納演武』

平成27年10月27日(日)、島根県出雲市の出雲大社仮拝殿において、貫汪館出雲大社奉納演武を行いました。前日は台風27号接近による影響で交通機関が乱れる中、参加者全員集まる事ができ、参加者全員集まる事ができ、遠方からも予定どおり集合し、無事に開催することができました。貫汪館が出雲大社で奉納演武を行なうのは初めてです。また、大変光栄なことに仮拝殿での古武道の奉納は今回が初めてとうかがいました。

出雲大社には縁結びの神様として知られる大国主大神様がまつられており、国宝である御本殿は60年ぶりとなる「平成の大遷宮」が行われ、平成20年4月の「仮殿遷座祭」から約5年間をかけ、本年5月10日には修造が完了した御本殿に大国主大神様がお還りになる「本殿遷座祭」が終了しました。貫汪館では、大国主大神様の「むすび」の御霊力を賜り、また、道場及び支部が新たに開設されたことへの感謝と今後ますますの発展を願い、日々稽古しております無雙神傳英信流拔刀兵法、大石神影流剣術、澁川一流柔術の業と心を御神前に奉納しました。

今回の奉納演武には、森本邦生館長をはじめとする本部道場の指導者及びその門人、七尾道場長、横浜支部長、名古屋西支部長、北大阪支部長、呉中央支部長、久留米支部から多数の参加がありました。演武に先立ち、午前7時から正式参拝が行われ、通常立入ることのできない八足門から瑞垣内に入り、桜門にて参拝させていただける栄に浴し、一同身の引き締まる思いをしました。

演武は、森本館長の無雙神傳英信流拔刀兵法から始まり、その後、

貫汪館顧問岡田先生、上條先生の演武に続き道場長、各支部長、門人が無雙神傳英信流拔刀兵法、大石神影流剣術、澁川一流柔術の形をそれぞれ奉納いたしました。森本館長から演武の心得として「御神前での演武であり、心を見てもらっている。いつも以上に上手な演武をしようとか、失敗しないようになど考えることなく、普段どおりの素直な気持ちでの演武を心掛けるように。」とお話しいただいておりましたが、格式高い出雲大社の仮拝殿で、また、荘厳な空気の中の演武でもあり、各門人も緊張した様子で、平常心で演武することの難しさを感じたことと思えます。

演武終了後に行われた直会において、森本館長から「本日の演武では地道に稽古を続けてこられた方と稽古不足の方の差が大きく出ていた。」とのご講評いただきました。参加された方は、森本館長のご指摘された意味をよく理解し、今後さらに精進していきたいと思えます。その後、先に行われました貫汪館秋季昇段審査において昇段された方へ證書が授与され、今回の奉納演武を終了しました。最後に、今回出雲大社での奉納演武を行なうにあたり、出雲大社「平成の大遷宮」奉祝事業実行委員会事務局事務局長 渡辺尚美様に多大なるご尽力及びひとかたならぬご配慮を賜りましたことを心よりお礼申し上げます。

(文責 貫汪館副館長 竹本康祐)





「出雲大社奉納演武を終えて」

この度の奉納は貫汪館では初めてのことであり、また出雲大社境内での古武道の奉納はほとんど前例がなく、そして今年も60年に一度の大遷宮の年でもあり、大変特別な行事となりました。そのような貴重な場で演武することができ、大変光栄に思っております。

当日は前日までの天候不順とは打って変わった澄んだ秋晴れの日となり、冷え込みも朝夕のみで日中は暖かく素晴らしい天候でした。お社の屋根に溜まった水分が朝日で温められ湯気が立つ様はまるで神気が立ちのぼっているようで実に荘厳な光景でした。

館長も予想しておられず驚きであったのが、八足門の中で正式参拝をさせて頂けたことです。

一般の方には正月の一時期しか許されていないことであり、本当に特別な体験でした。清浄な空気が満ちた外界とは異なる場所での、その空気によるものか森本館長が演武後に「とても透明な気持ちで演武できました。」と仰しやら

れていたのが印象に残っています。

私自身は日頃の稽古工夫が至らず心が波立っている状態が続いていましたが、やはり神気のお陰か館長ほどではありませんが心の力みが取れた状態で演武に臨めたように思います。ただ透明には程遠く、「先日より稽古を積み重ねましたが、まだまだ」とご指導を頂きました。今回、己の至らぬところがより鮮明に見えてきました。これを糧により精進して参りたいと思います。

私は出雲大社を訪れるのは初めてでしたが、出雲の地に残る古代の雰囲気を感じる事ができたのは興味深い経験でした。伊勢神宮・熱田神宮では機会を得て何度か御垣内で参拝させて頂いたことがありましたが、出雲大社の空気はどちらのお社とも異なるものでした。

この度の奉納演武は出雲市役所の方のご好意、館長の並々ならぬご努力、そして多くの方のご協力で実現したものと伺っております。実現に向けてご尽力された皆様はこの場を借りてお礼を申し上げます。と思います。ありがとうございます。

(文責 名古屋西支部長 林大介)



「出雲大社奉納演武を終えて」

出雲大社は大国主大神をお祀りする国内でも社格の高い神社としても有名です。また平成25年は60年ぶりの式年遷宮が行われ、伊勢神宮とともに平成の式年遷宮として全国から多くのご参拝者が来られておりました。そのような記念すべき年に奉納演武に参加させていただきましたこと出雲市役所の渡部様ならびにご関係者の皆様、また貫汪館館長森本先生へ心から御礼を申し上げます。

正式参拝を終え、仮拝殿へ案内いただきました。奉納演武では森本先生や諸先輩方の素晴らしい演武を拝見させていただきました。

そのような中で私の奉納演武の順番となりました。あまり緊張をしないようにと前日も宿泊したホテルでものさしを使って稽古をいたしました。演武でも自分のいつものように演武するつもりでありましたが、やはり力が入っていないこともあり、普段の稽古よりは固まってしまったように思います。初めて奉納演武に参加させていただき、またこの様な格式ある出雲大社での奉納が出来ましたこと何よりの誉れであります。神前ではこれから精進していくことを決意させていただきましたので、今後とも稽古に励んでまいりたいと思います。

(文責 久留米道場 阿南貴史)



『明治神宮日本古武道大会』

平成25年11月3日(日)明治神宮西参道芝地において、日本古武道大会が行われました。貫汪館からは、森本先生が無雙神傳英信流抜刀兵法、澁川一流柔術の演武を、竹本康祐、竹本治恵は澁川一流柔術の演武を奉納してまいりました。明治神宮の奉納演武は、第一会場と第二会場があり、両会場合わせて59流派が参加されました。演武は屋外の芝地にて実施されますので、足元の状態が前日に降った雨による影響を心配していましたが、幸い順番が遅かったため、演武が始まるころにはすっかり乾いてまったく気になりませんでした。

今回の演武では、特に丹田を意識を集中し、決して力まないことを心掛けて臨みました。演武後、森本先生から「いつもより上体がふらついていなかった。」とお言葉を頂き大変感謝しております。

今回の大会も各流派みなさん立派な演武をされていましたが、中でも特に印象深かったのは、琉球古武術の先生方の

演武でした。まるで棒自身が勝手に動いているかのようで、しかも目にも止まらぬ速さで棒を操られておられました。自分を振り返ってみてまだまだ修行、鍛練を続けなければいけないと感じました。

(文責 本部道場・竹本治恵)



## 『筑波大学 古武道体験教室』

平成25年11月28日(木)筑波大学において、古武道体験教室が開催されました。

正式名称は、比較文化学類独自の教育プログラム「古武道」場所は、筑波大学 武道館古武道場、演題は、「古武道を体験する」対象は、筑波大学 日本人留学生及び外国人留学生です。

館長が講師を委嘱され、横浜支部長が助手として同行いたしました。

最初にパワーポイントを利用した座学を行いました。外国人留学生がいらしたため、日本語による理解が難しい部分については、館長による英語の説明も行われました。座学のあと、事前に郵送しておいた大石神影流の木刀を一人ずつお持ちいただき、構え、素振り、試合口、陽之表までを稽古していただきました。

参加者がどんな方々か不明で、実技をどのように進めるべきかは悩みどころでしたが、とても理解の早い方ばかりでとてもスムーズに進めることができ、試合口五本に続いて、陽之表は館長の選んだ数本の手数までを稽古していただくことができました。

笑顔と拍手のうちに実技を終え、最後に全員で記念撮影を行いました。夜は懇親会にご招待いただきました。

貫汪館では毎年恒例の演武大会のほかにも「城下町広島の歴史講座十講」「広島城二の丸夜話」「廿日市市国際交流協会における演武」などに参加してきました。

今後もこのような活動を続け、貫汪館の古武道の普及につとめて参りたいと思います。

(文責 横浜支部長 内住信之)



## 『貫汪館 大石神影流特別稽古』

平成25年11月30日(土)、貫汪館館長の指導による、貫汪館門人のための大石神影流特別稽古がありました。

内容は、大石神影流剣術のこれまでの復習と三學圓之太刀および防具着用稽古です。

参加者は貫汪館の門人で、本部道場の門人と各支部長の参加がありました。最初に館長から「まずは今までの復習。これまでに教えてきたことばかりなので、また同じことを言われたいように。おかしなところをちらりと見ながら、言われる前に気付いて自分で直すように。」とお話がありました。構えは真剣、上段、下段、附け、脇中段、脇上段、車。各人が構えて、館長が問題点を指摘します。構えは基本中の基本ではあります。完璧にできる人はなかなかいません。

素振りは上段から真剣に下ろします。肚を中心に下ろすように心がけます。

二人一組となつて、試合口五本、陽之表、陽之裏をさらりと通します。すでに何度も稽古している手数です。で、館長もそれほど細かくは指摘しません。そして、三學圓之太刀の稽古となりました。館長と師範による示範としました。すでに稽古をしている門人と初めて門人がいましたがいずれもすでに構え、素振り、試合口、陽之表、陽之裏と稽古が進んでおり、完璧ではありませんが大石神影流の動きが身に付きつつあります。稽古は順調に進み、すべての手数を習うことができました。手数を渡されたら、あとは自分で稽古をするばかりです。

最後に、防具着用稽古を行いました。防具の着装は初めての門人もいましたが、経験者から教わりながら、とくに問題なく着装することができました。

防具着用稽古は、試合口五本と陽之表、陽之裏を稽古しました。防具を着装して竹刀で直接打ち込むには不慣れた門人も、いつもどおりに大石神影流の動きができていたように思います。

今後も防具着用稽古を続け、大石神影流の動きで自由な攻防ができるようになりたいと思います。

(文責 横浜支部長・内住信之)



## 『貫汪館 居合講習会』

平成25年12月1日(日)に廿日市の大野体育館武道場で貫汪館居合講習会が行われました。好天に恵まれましたが、朝の気温は低く、寒い中で稽古が始まりました。

今回は、無双神伝英信流の太刀打と詰合、大石神影流の試合口の指導を頂きました。初めに館長より、「今日は厳しく指導していく」というご訓示がありました。厳しくというのは、教えを受ける側が感度を高めなければいけないということです。果たして私にそこまで感度を上げられるか?という危惧が頭をよぎります。

初めに館長が見本を示されます。その後には相手をつくって稽古開始です。一本一本の形を丁寧に、何度も繰り返し稽古をしました。私を指導くださった先輩からは、「力が抜けていない、意識が途切れている、形(かた)を固定したものとして捉えている、腹から動いていない、体全体がバラバラである」といった懇切丁寧な指導を頂きました。

書くと思える全否定に見えますが(実際にもそうかもしれませんが)、悪い箇所を指摘し、都度見本を示し、ということに倦まずに続けていたことには感謝ばかりでした。そして当初危惧した私の感度云々はまったく要らぬ心配でした。あまりに出来なくて、楽しくなってきたのは妙なことでしようか?自分の体なのに、自分の心なのに、思った通りに動きません。ひたすら力を抜くことを心がけ、まだはつきりとはつかめていない体軸を垂直にしようと奮闘します。ですが、力を抜こうとすると腹から意識が抜け、腹に意識を集中すると体軸が曲がり、体軸をまっすぐしようとする力が入る始末。一度は、まったく力なんて入れていないつもりなのに、館長からもっと力を抜いてと指示され、まだ抜けていないのかとがっかりすると、「そう!それ!」と言われ驚いてしまいました。まだ力が抜けるのです!。

今まで稽古を積んで、そこそこの力も抜けるようになって、動けるようになったのかなと思っていました。ほとんど初心の域を出ていないことを痛感するばかりでした。以前との違いは、どこができていないのか、どうすればいいのかがオボロゲながら分かってくることでしよう。

稽古が終わってみれば、汗をかいていました。翌日からは足腰の激しい筋肉痛に見舞われました。

準備ご指導を下された館長と諸先輩方に対し、今回の講習会で学んだものを、普段の稽古で習得していくことを誓うことで、感謝の意に代えたいと思います。

(文責 北大阪支部長 堂元慎介)

『廿日市天満宮奉納演武』

平成25年12月15日(日)、廿日市天満宮にて奉納演武が行われました。

正式参拝の後、今年の成果を神様に見てもらうために、また自身を見つめ直すために各々の演武を行うことができました。見せるための演武でなく、素直な気持ちで演武することが奉納演武であり、子供も大人も決して見栄をはることなく、自身と向き合えた静かな演武をするこ

とができたようにも思います。子供達は他の方が演武している姿を真つ直ぐに見ており、また自身の演武を行うときは固まった動きになることもなく、素直な動きができていたように思います。子供のこ

ういった素直な動きをするということは難しく、見習うところが多いなど感じます。大人の方は稽古の場だけでなく、日頃の日常生活から自分の課題を解決しようと努力されていることが伺える演武でした。大人の方は自身の注意すべき点を十分に理解し演武に望まれていて、普段の稽古で見る動きよりも良い動きができて

いる方が多かったです。稽古納めは後日でしたが、今年を納めるいい奉納演武となったと思います。この奉納演武で自ら気づいたことを来年どう活かしていきな

大きな影響を与えていると思います。  
(文責 本部道場 中西有希奈)



「廿日市天満宮奉納演武を終えて」

私は、かつて部活動で弓道をしてきたこともあり、武術に興味がありました。部活動を引退してから、何か新しいことをしたいと思っていたところ、知人が柔術をしていたため見学に行かせていただき、稽古を見てやってみ

たいと思います、はじめてから現在に至ります。現状での私の大きな課題は過去に培ってきた、柔術における無駄な動作をそぎ落とすことです。稽古が開始して間もない頃、これまでの固定観念を捨てるようご指導をいただいたこと

があります。そこでまず捨てるべき固定観念は弓道かと思いましたが、弓道における胴造りは足を張るため、腰を落とすのは非常に難しく、そもそも胴を造るといった概念が存在しない柔術

においてはお考え方自体を矯正すべきことだと思えました。そのような課題に取り組みつつ、日々先生方にご指導していただき、奉納演武会の日を迎えました。演武会が終わったあと、先生

から上達したとのお言葉をいただきました。この時の喜びを忘れず、これからの稽古に取り組んでいきたいと思えました。今回の奉納演武会は初めての演武だったゆえにとっても刺激された点が多く、今後の稽古への意欲がより一層高まるものとなりました。新年の稽古までやや時間が空きますが、普段の日常でできる稽古もあるので、日々それを継続し、今後の稽古に活かそうと思えます。最後に、まだ始めて3ヶ月ですが、礼儀や技などを丁寧にご指導いただきありがとうございます。来年も何卒よろしくお願

致します。  
(文責 本部道場 若狭優貴)



『貫注館 昇級審査』

平成25年度の昇級審査が6月と12月に行われ、4名の子供たちが昇級していますのでご紹介いたします。

- 平成25年6月29日 昇級者
- 松尾 厚輝 三級
- 宮下 悠誠 三級
- 高田 琉市 八級



平成25年12月21日 昇級者  
向井 薫子 一級

